



# あれこれ通信

しぶやとみこの議会報告

NO. 41

2004年12月4日

渋谷とみ子の会

埼玉県比企郡嵐山町平沢 254-64


Tel 0493-62-7997 Fax 63-1727

<http://www.aya.or.jp/~r777/shibuya>

## 21世紀の比企地域に新しい産業を創り、嵐山町を豊かに！

**地**球温暖化を防止するための京都議定書を、ロシアが11月5日に批准したので、来年2月に京都議定書は発行されます。議定書に批准した日本はCO2の削減に取り組むことになります。現在では、1990年排出量の14%の削減(1億7290万ト)が必要です。

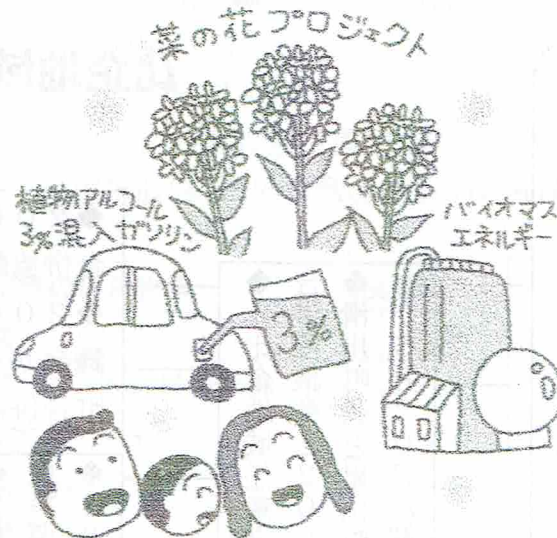
2 酸化炭素を削減して、地球温暖化を防止するには、石油エネルギーに頼っている現在から、自然エネルギーに転換していくことが必要になります。

 日本の自動車燃料は、100%ガソリンです。ブラジルには、100%トウキ

ビで創ったエタノールを燃料とする自動車があります。アメリカでも、公害抑制のために、ガソリンに3%のエタノールという植物からつくったアルコールを混ぜたガソリン燃料を使う自動車、10%のエタノールを混ぜたガソリン燃料の自動車も増えています。日本のガソリンを3%のエタノール混入にすると、年間250万ト、CO2が削減でき、削減しなくてはならないCO2の1.4%になる計算です。

中山間地の比企地域には、バイオマスエネルギーといった、動植物からエネルギーをつくる産業をおこすことができます。地球温暖化を防止するため産業のありかたの転換期です。

**イ**ンターネットなどによる情報革命の時代、時代を先取りしながら地球温暖化を防止して、地球上の生命が持続的に生活できる産業を育てることが大切です。



イラク・サウジアラビアの石油エネルギーから、日本の資源で生産できるエネルギーに替える政策が必要です。

秩父市では、秩父の山系からえる林業資源の端材や、放置された山の手入れをして出てくる木材を利用したバイオマス

発電が始っています。横須賀市では、生ゴミから自動車燃料のエネルギーをつくる実験的取り組みをしています。

**菜**の花プロジェクトといって、滋賀県や千葉県では、菜の花を栽培し、菜種をつくり菜種油を食材にした後の廃食油を精製して、自動車のエネルギーに替えていく循環を考え出し、試験的に取り組んでいます。

比企地域もバイオマスエネルギーや地球温暖化を抑止する事業を新たな産業として先取りして取り組むことができます。比企地域の新しい産業を考えて、新しい生活文化をつくっていきましょう。